

学校法人京都YMC A学園
京都YMC A国際福祉専門学校
2019年度 学校関係者評価会 議事録

日 時： 2019年11月26日 (火) 18:00～19:00

場 所： 京都YMC A国際福祉専門学校

出席者： 黒木保博氏（学識経験者）、山本孝氏（本校卒業生）、加藤俊明氏（校長）、阿部和博氏（副校長）

- 次 第： 1. 開会あいさつ 校長
2. 学科状況報告 副校長
3. 学校自己点検・自己評価について報告 副校長
4. 質疑応答
5. 閉会あいさつ 校長

内 容：

1. 開会あいさつ

校長より学校の耐震補強工事も終わった校舎での1年間の学校状況の概要と2018年度からスタートした「学園チャレンジ2025」についての進捗状況の報告を含めたあいさつがあった。

2. 学科状況報告

日本語科と介護福祉学科の連携によるグローバル人材養成スキームが順調に進んでいる。日本語科は過去最高在籍生数となっている。また、介護福祉学科にも外国人留学生の入学者が増え、留学生比率が過去最高率となった。ただ、日本人学生の獲得が難しく、好景気と就職率の高さから福祉業界を目指す日本人希望者が大幅に減っている状況であるとの報告が阿部副校長よりあった。

3. 学校自己点検・自己評価について報告

2018年度の自己点検・自己評価についてを別紙評価表を基に以下のポイントを付加しながら阿部副校長より説明された。

卒業生の就業状況の把握が難しく、状況把握のためのシステムが必要なこと。就業先の奨学金等、経済的支援スキームが必要なこと。日本人学生の募集活動が広がらず学生獲得に苦戦していること。

4. 質疑応答

質疑応答を行い、以下のような改善点や問題提起等の意見があった。

・外国人介護人材については今後の福祉業界としても重要な存在となるため、入学までのスキームや学費等の支援スキームの計画立案を積極的に行う必要がある。

- ・全国の YMCA 専門学校が共働したスケールメリットを生かした合同広報を行ってはどうか。
- ・日本語科においては漢字圏の学生以外に非漢字圏の学生を増やし、将来の日本での就業のための人材養成を行うことも必要である。
- ・グローバル人財の養成を掲げた「学園チャレンジ2025」のために学科間の教員連携をさらに推進する必要がある。
- ・他の学校とどのように違うかをカリキュラムで差をつけるためにも科目別の授業アンケート以外の授業評価システムを模索してほしい。
- ・卒業生のネットワーク作りには SNS など ICT を活用してはどうか。

5. 閉会

引き続き、就業先のニーズに沿った教育内容の充実に努めることとし閉会した。

以上